

図面資料のいろいろ

図面資料には時代や用途によって、さまざまな用紙や筆記具が使われています。古いものには和紙の図引紙などに筆書きで描いたものがあります。時代が下ると、薄く半透明なトレーシングペーパーを使用します。中にはグラシン紙と呼ばれるツルツルした手触りの非常に薄い紙に、烏口と呼ばれる製図用の特殊なペンで描いたものもあります。烏口はペン先が鋭いため描線に沿ってカッターで切ったように破れてしまうこともあります。また、原図をコピーした青図や青焼きもあります。青図は脆弱な紙が多く、青焼きは感光紙に焼き付けるコピー方法なので青い描線や文字が経時的に

薄くなっていきます。材料だけでも図面資料は多種多様です。さらに、図面の大きさもさまざまです。近年はA1サイズ(八四・一×五九・四センチ、A4紙を八枚並べた大きさ)やその倍のA0サイズに規格統一がなされてきています。古い時代は用途に合わせて規格もいろいろです。保存の方法としては、古いものは、小さく折りたたんで、通常の文書と一緒に綴じ込んでいたり、収納用封筒に置み込んでいたりします。この場合、図面の折り目の部分が弱くなって破れてしまうことがあります。時代が下ると、図面を何枚か重ねて、軸の着いた図面収納用の巻物に巻き込んで保存したり、同じく図面を丸めて筒状の収納ケースに収める場合も

あります。近年は図面のサイズが統一されているので、大判のケースに複数枚の図面を広げて納め、二つ折りや三つ折りにして収納します。いずれにしても紙を畳んだり、丸めたり、折り曲げたりするので、傷み易くなります。

最も使われる公文書

図面は、建物の新築・増築・改修、電気やインターネット回線の配線、ガス・水道の配管など、建築物や工作物の工事に作成され、利用されます。場合によっては、その建物・工作物の工事や点検の度に広げ、場合によっては工事の現場で使用します。こうした図面も大学の公文書にあたりますが、公文書の中でも最も繰り返し利用するものと言えます。従って、常に利用できるように、破れたり傷んだりすると、セロハンテープなどで簡易な補修をしてみます。そのテープが編年劣化すると、粘着材が重ねたり折ったりした図面どうしを接着してしまいい、広げること剥がすこともできない事態に陥ります。図面資料の扱いはなかなか厄介なのです。

しかし、図面資料には建物の設計図面など、デザインとして非常に美しく、見栄えのするものが多くあります。例えば、洋

大学文書館へ行こう

第24回 「図面と模型」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



白いセロハンテープなどで補修された図面資料と巻物状の保存材

菓子店きのとやが「札幌農学校」というクッキーを販売していますが、その包装箱には札幌農学校農学教室の立面図を図柄として使用しています。もちろん、既に失われた建物についての研究や、改修や改築が繰り返された歴史的建造物を竣工当初の姿に復元するなど場合などにも欠かせない歴史的資料です。

図面から模型へ

この春、大学文書館では、総合博物館から「札幌農学校農学教室」(一九〇一年建設)と「北海道帝国大学農学部本館」(一九三五年建設)の模型



札幌農学校農学教室模型



北海道帝国大学農学部本館(計画時)模型

(縮尺四〇分の一)の移管を受け、展示ホールに設置しました。いずれも、図面資料を基に二〇〇一年に作成したものです。農学部の新旧建物を同じ縮尺で見比べることが出来ます。「農学教室」は既に失われた建物です。「農学部本館」の方は現存する建物ですが、模型と実物とは少々異なります。この「農学部本館」模型は、計画図面を基に作成したので、実際に実現した建物とは一部が異なります。塔の部分には、模型設計を担当した大学院工学研究科池貝重康先生曰く、「デコレーションケーキのような」三層の構造物をあしらったデザインになっていて、なかなかこつてりとした面白い印象です。

長く大切に保管されてきた図面資料から立ち現れた、既に失われてしまった建物、もしかしたら存在したかも知れない建物の模型を、ご覧いただければと思います。